

平成31年度  
 劇場・音楽堂等機能強化推進事業  
 (地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)  
 成果報告書

団 体 名	能勢町	
施 設 名	淨るリシアター	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業	
内定額(総額)	4,893	(千円)
公 演 事 業	4,893	(千円)
人 材 養 成 事 業	0	(千円)
普 及 啓 発 事 業	0	(千円)







## 2. 自己評価

### (1) 妥当性

自己評価
<p>社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p>
<p>能勢町は大阪府の最北端にあり、交通網では鉄軌道が敷かれていないが、道路交通網の整備が進んだ今日においては、京都・神戸の各方面からもアクセスしやすいという位置にある。この状況下のもと「浄るりシアター」は、①文化芸術の創造活動②個人やグループの文化活動に対するサポート③住民のニーズに答えた鑑賞事業④文化観光情報の発信の4本柱で事業展開を図った。</p> <p>中でも郷土芸能である〈能勢人形浄瑠璃〉の特性を活かした文化芸術創造活動事業は、当初の予定通りに実施することができた。事業内容は以下の4事業である。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 6月能勢浄るり月間「能勢人形浄瑠璃鹿角座公演」（バリアフリー対応）</li><li>2. 人形浄瑠璃ワークショップ</li><li>3. 鹿角座ジュニア発表会</li><li>4. 能勢人形浄瑠璃鹿角座「まちかね ta 公演 at 大阪大学」（バリアフリー対応）</li></ol> <p>古典の技芸員と現代演劇の創造者とのタッグによる舞台美術や演出で、古典においても斬新なオリジナル舞台を創造することができた。人形浄瑠璃文楽座等プロの指導のもと能勢人形浄瑠璃鹿角座（ろっかくざ）座員の技術向上と、住民にも窓口を広げてワークショップを行うことで意識向上が図れた。また、新たな継承の取り組みとして開催した発表会では、参加した子供達が地域芸能に触れ、舞台創造に興味を待ち、終了後には鹿角座への入座に繋がった。大阪大学での野外公演は開催場所・時間の状況を踏まえた演出や、学生・研究者も巻き込むことで新しい舞台芸術を表現させた。2つの公演では字幕や音声ガイドを活用し、耳や目の不自由な方や高齢者にも快適な劇場空間を創り出すことができた。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p>
<p>地元の子供達が地域芸能への愛着を培うことを踏まえ、小学校との連携で小学6年生の総合学習の取り組みや放課後を利用したアフタースクールにおける人形浄瑠璃の指導と、地元府立高校との連携で人形浄瑠璃クラブの立ち上げや授業枠において人形浄瑠璃学習を組み込むことが実現した。</p> <p>また、能勢町と包括協定を締結する国立大学法人大阪大学との連携で、大学構内の野外にステージを組んでの公演を実施した。このことは学生及び教授等の大学関係者をはじめ、近隣住民や地元商店街との連携を実現し、人形浄瑠璃、能勢町、浄るりシアターという劇場のPRにも繋がった。</p> <p>以上のような取り組みにより地域芸能を素材として、住民や教育機関と劇場との間に強固な繋がりが形成され、今後も連携を図って様々な事業を展開していくベースが確立できた。このような文化芸術活動を継続することで自ずと地域の観光振興にもリンクし、地域活性化に繋がると確信する。</p>

## (2) 有効性

### 自己評価

目標を達成したか。

#### ●事業番号1『6月能勢浄るり月間「能勢人形浄瑠璃鹿角座公演」』

過去2年の入場率の平均に設定した入場率指標98%に対し、90%となったが、これは団体予約がキャンセルとなったことが原因と考えられる。

#### ●事業番号2『人形浄瑠璃ワークショップ』

予定通りコンスタントに人形浄瑠璃ワークショップを開催し、鹿角座座員は無論のこと、地域住民や未経験者の見学等と窓口を広めたことにより、参加者数の目標達成率は106%で、回数も達成率140%となった。

#### ●事業番号3『鹿角座ジュニア発表会』

次代を担う子供達への継承の方法として従来のワークショップに加え、稽古から舞台本番までを通して様々な体験ができる発表会を企画した。文楽座等プロフェッショナルからも指導を受けられること等も要因の一つとなり参加者人数が予定を上回り21名となり、達成率は210%であった。

また既に在籍している鹿角座子供メンバーや鹿角座大人メンバーとの年齢を超えたコミュニケーションから学ぶことが多かったと参加者や保護者からも好評を得た。

※参加者21名（語り5名、三味線2名、人形遣い7名、囃子7名）

#### ●事業番号4『能勢人形浄瑠璃鹿角座「まちかね ta 公演 at 大阪大学」』

学生や教授等大学関係者、近隣住民等に鑑賞してもらえるようしたことで、達成率は133%となった。

### (3) 効率性

#### 自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

#### ●事業番号1『6月能勢浄るり月間「能勢人形浄瑠璃鹿角座公演」』

事業期間については毎年この時期に開催されると認知されてきていることを鑑み、当初予定通りの日程、2公演で進めて実施した。

収支予算に対し、収入は減っているが、効率よく進めたため支出を抑えることができた。

#### ●事業番号2『人形浄瑠璃ワークショップ』

予定通りコンスタントに人形浄瑠璃ワークショップが開催できた。よって事業費も予算内で進められた。

#### ●事業番号3『鹿角座ジュニア発表会』

事業期間については指導者と受講者のスケジュール日程の調整に時間を要したため、もう少し早めに募集をかけ、稽古回数を増やしてもよかったと考える。

事業費は当初予定通りに進められた。

#### ●事業番号4『能勢人形浄瑠璃鹿角座「まちかね ta 公演 at 大阪大学」』

事業期間は学生や教授等大学関係者、近隣住民等に鑑賞してもらえるようしたことで、目標達成率 133%と多くの来場者に観ていただけたので計画通りに進んだ。

事業費も収支予算の範囲内で進められ、仕掛け等来場者に楽しんでいただく演出ができた。

## (4) 創造性

### 自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

能勢町は人口約9,800人で、町内に鉄軌道が敷設されておらず、町外から本町へ来訪する場合、大阪市内から電車・バスを利用して約1時間半、車を利用して約1時間を要する。このような環境要因の中、町内唯一の劇場として、伝統芸能を保存・継承していただくだけではなく、オリジナルの舞台芸術として発展するための挑戦を続けている。その取り組みが認知され一定の評価を得ていることは、活動への参加者数や公演への来場者数等の具体的な数字、マスコミからの取材実績にも表れていると考える。

#### ●事業番号1『6月能勢浄るり月間「能勢人形浄瑠璃鹿角座公演」』

古典演目であってもオリジナルの演出や演目解説等に趣向を凝らし、町内外からファンを多く集める公演となった。

公演のチラシ・ポスター制作には毎年流行や話題等を取り入れているが、今年は『令和』最初の公演ということ踏まえたデザインとなり話題を集めた。時代物・世話物等ジャンルの異なる3つの古典演目を上演し、幕間にはスクリーンを用いて親しみやすいイラストと共に紙芝居風に演目解説をすることで、敷居が高いとされる古典演目の楽しさを紹介することができた。更に、“劇場に足を踏み入れた瞬間から公演が始まっている”をコンセプトに、開演前のロビーパフォーマンスや休憩時間に立ち寄れるお茶席、野菜等物産品の販売、観光案内等、町の様々な魅力を感じてもらえるような工夫で来場者の満足度を高めた。

#### ●事業番号2『人形浄瑠璃ワークショップ』

人形浄瑠璃文楽座技芸員等、プロフェッショナルによる指導のもと、座員の技術・意識向上を図ることができた。また、“プロによる直接指導”というブランド力で、これまで経験のない新規参加者を獲得することができた。

#### ●事業番号3『鹿角座ジュニア発表会』

後継者不足の問題を解消する戦略の一つとして、地域の子供達を対象に参加者を募集し人形浄瑠璃の発表会を開催した。子供達により深く地域の伝統芸能を体験してもらえたことは勿論であるが、指導の文楽座技芸員、地元浄瑠璃関係者、参加者の子供達を送迎する保護者、舞台スタッフ等、異なる立場の者が次代を担う子供達による発表会のために協力し合い、刺激し合えたことで様々な人材交流が図れた。

#### ●事業番号4『能勢人形浄瑠璃鹿角座「まちかね ta 公演 at 大阪大学」』

能勢町と包括協定を結んでいる大阪大学と浄るりシアターは、人形浄瑠璃についての講義・公演実習、能勢町をフィールドとした研究、浄るりシアターでの学生インターンシップの受け入れ等、様々な形で連携事業を行ってきた。

その実績を踏まえ、新たな試みとして開催した本公演は、大阪大学キャンパス内に野外特設ステージを設置し、世界初の“萌えキャラ浄瑠璃人形”（三人遣い）による演目上演や、古典演目『日高川入相花王』を花火やムービングライトを用いて演出する等、よりエンターテインメント性の高いものとなった。

また、学生・地域住民をターゲットとして公演時間や開催場所を工夫したことで、構内を散歩中の住民や学生等、偶然通りかかった方にも公演を鑑賞していただくことができた。



## 自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

浄るリシアターは地域住民の文化芸術活動の拠点として、地域の人々とともに創造し発展・継承していく伝統芸能の製作を行っている。

200年以上の歴史を持ち、太夫と三味線の素浄瑠璃からなる〈能勢の浄瑠璃〉（現在も約200名の太夫が存在する）を礎に、浄るリシアタープロデュースのもと誕生した「鹿角座（ろっかくざ）」は地域住民で構成されている人形浄瑠璃劇団である。太夫・三味線・人形・囃子の4つのパートから成り、小学生から70代まで幅広い年齢層で活動を続けている。

この鹿角座の活動を邁進させることで、地域に根差し、守り継承されてきた伝統を、地域住民によって発展させ次の時代に送っていくことが浄るリシアターの使命の一つである。そのためにスタッフにはプロフェッショナルを招へいし、アマチュアである鹿角座座員の技術向上を図り、伝統に媚びない斬新な制作による唯一無二のオリジナル人形浄瑠璃で世界に通用する舞台芸術を創造している。

### <人形浄瑠璃技術指導>

芸術監督の桐竹勤十郎氏をはじめとした、ユネスコ世界文化遺産にも登録されている「人形浄瑠璃文楽座」の技芸員の方々等、プロの指導を受けることで座員の技術は勿論のこと意識向上にも繋がっている。

### <舞台美術・人形衣裳>

第46回伊藤憲朔賞を受賞した現代舞台美術家である加藤登美子氏が舞台美術・人形衣裳を担当している。現代風の舞台美術や洋服生地を用いた人形衣裳等、伝統を重んじながらもそれに囚われない柔軟な発想で“能勢オリジナル”を表現しており、地域の新たな財産を創造している。

### <人形制作>

人形制作は徳島県在住の人形彫師 甘利洋一郎氏に依頼しており、浄るリシアタースタッフのスケッチをベースに“浄瑠璃人形らしさ”を損なわず現代風で親しみやすい顔立ちのデザインを創り出している。また、大きな瞳にピンクの頭髪、ミニスカートの衣裳を纏った萌えキャラ「お浄&るりりん」（能勢町公認キャラクター）の浄瑠璃人形は世界初の試みとしてメディアにも取り上げられた。

### <舞台スタッフ>

現代演劇やコンサート等のエンターテインメント事業に携わる舞台・音響・照明等各ジャンルのスタッフを地域芸能に巻き込み古典演劇に現代のセンスを取り入れている。

## (5) 持続性

### 自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

以下のような取り組みで浄るりシアターの活動を円滑に継続できるよう努めている。

#### <人材育成面>

##### ●劇場製作スタッフ（浄るりシアター職員）

町直営であるため職員の人事異動は避けられず、常勤職員2名、非常勤職員3名という少人数体制で運営を行っているため、ノウハウ・スキルをシェアする運用を行っている。

##### ●伝統芸能の後継者育成

町の小・中学校、高校や協定を結んでいる大阪大学等の教育機関と連携しながらネットワーク強化に努め、児童や生徒、学生に人形浄瑠璃についての学習・体験の機会を提供し、親しみをもってもらえるよう努めている。

- ・総合学習授業時間内での人形浄瑠璃の体験・発表（小学校）
- ・人形浄瑠璃公演鑑賞（小・中学校）
- ・授業時間内での人形浄瑠璃学習・体験（高校）
- ・人形浄瑠璃に関する講義、公演実習（大学）
- ・インターンシップ（大学） 等

また、事業番号2「人形浄瑠璃ワークショップ」及び事業番号3「鹿角座ジュニア発表会」を経て、参加者が継続して鹿角座の活動に参加している。

#### <経営面>

一般財源及び基金の効率的運用のため経費縮減と自主財源の獲得に努めている。

- ・浄るりシアターロビーにまねき看板を掲出する「まねき広告」により寄付を募り、能勢町に寄贈している。
- ・浄るりシアターで使用する封筒に広告掲載枠を作り、広告を募集。掲載料を徴して広告宣伝を行っている。
- ・補助金・助成金を活用し効率的な事業運営を行っている。